

コロナ禍における 保育園利用自粛要請時の家庭状況調査報告

2020・11

NPO法人さくらんぼ、NPO法人ピッピ親子サポートネット

コロナ禍における 保育園利用自粛要請時の家庭状況調査

目的

緊急事態宣言期間中、保育所の利用自粛を求められ、小さな子どもを抱えながら日常生活と就労を自宅で行なわざるを得なくなった家庭が、どのような困難を抱え、どう行動したのか、その状況を捉える。調査結果を踏まえ政策提言を行う。

対象

認可保育所 小規模保育施設、横浜保育室を利用する保護者

配布・回収方法

アンケート回答用紙を配布・回収

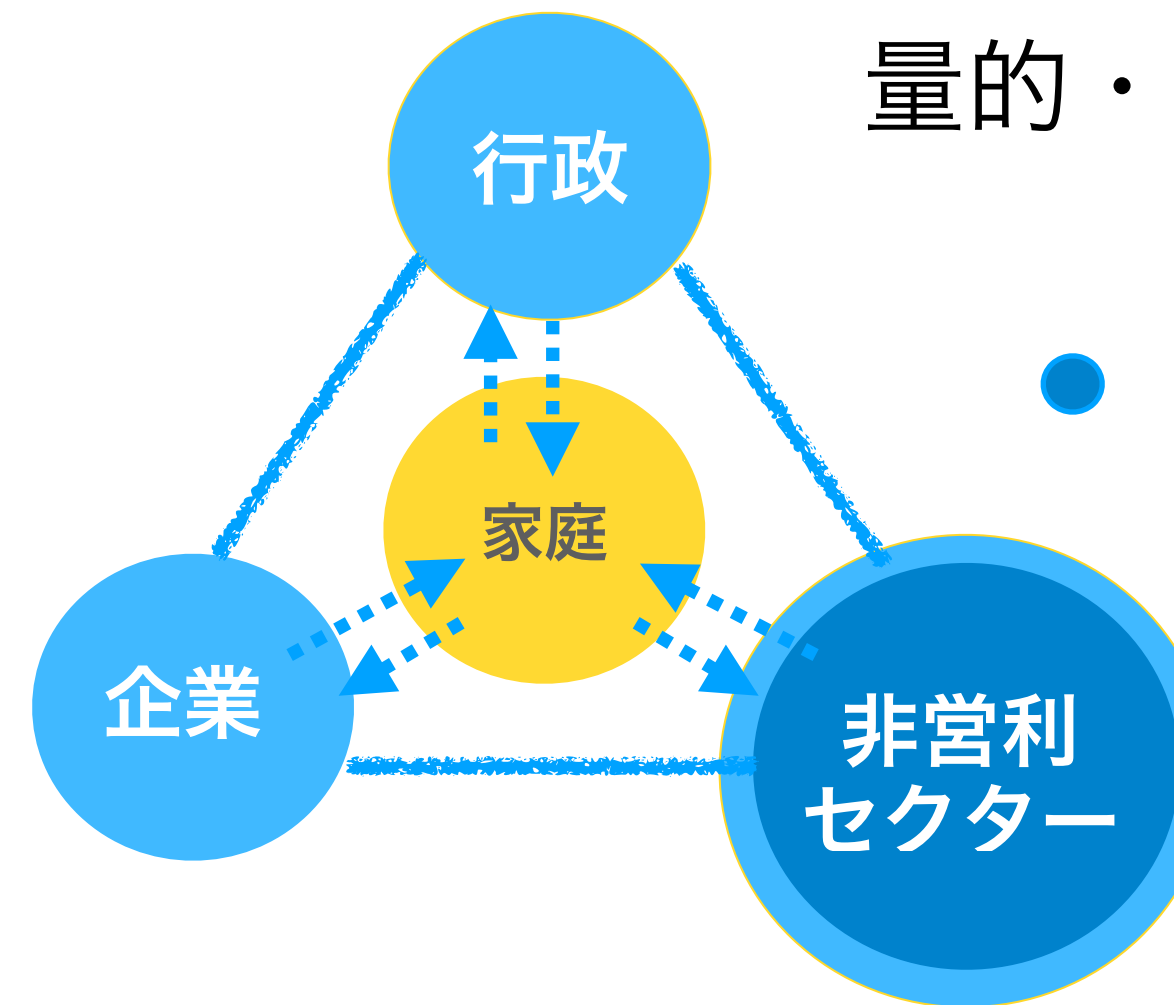
調査期間

2020年 8月7日から 8月21日まで

有効回答数 356

本研究の視点

- 緊急時のケア責任の配分について、量的・質的データから明らかにする



- 子育ての社会化についてボトムアップの考察を試みる

実施団体

特定非営利活動法人 さくらんぼ

認可保育園、小規模保育施設、横浜保育室、乳幼児一時預かり、親と子のつどいのひろば、産前産後ヘルパー派遣、母子家庭等日常生活支援、放課後児童健全育成事業、放課後キッズクラブ、地域子育て支援拠点、児童家庭支援センター 等運営

特定非営利活動法人 ピッピ親子サポートネット

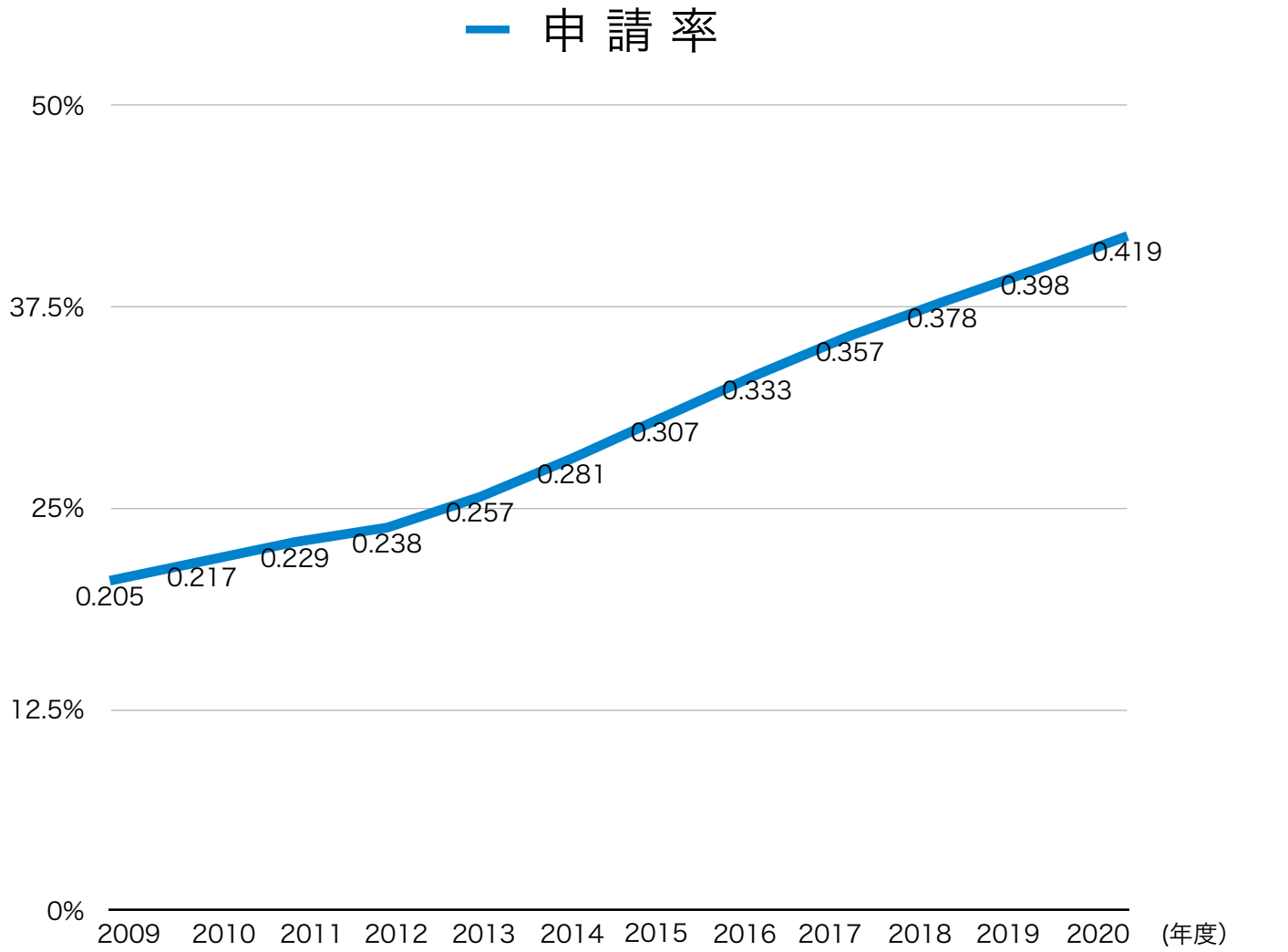
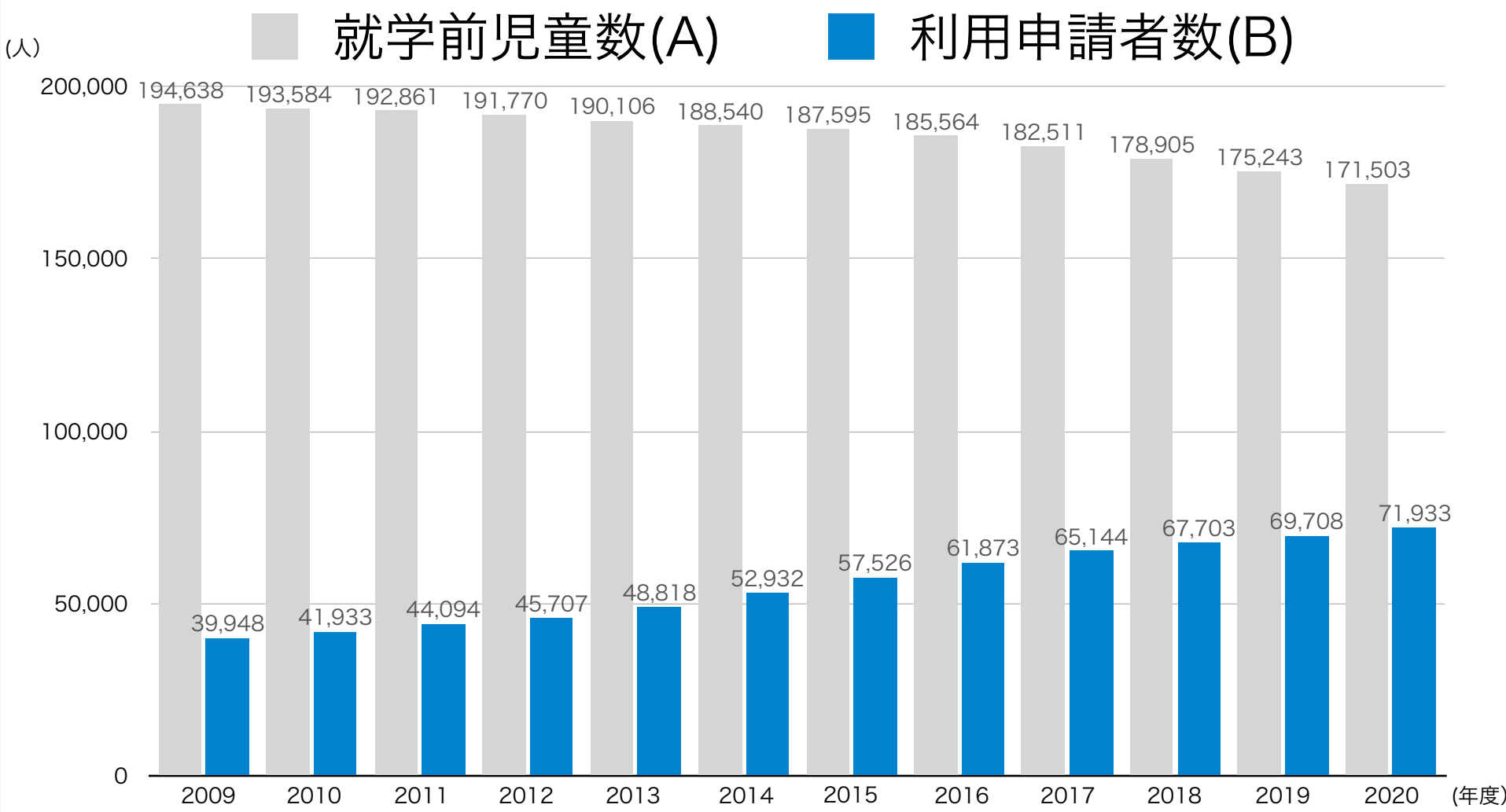
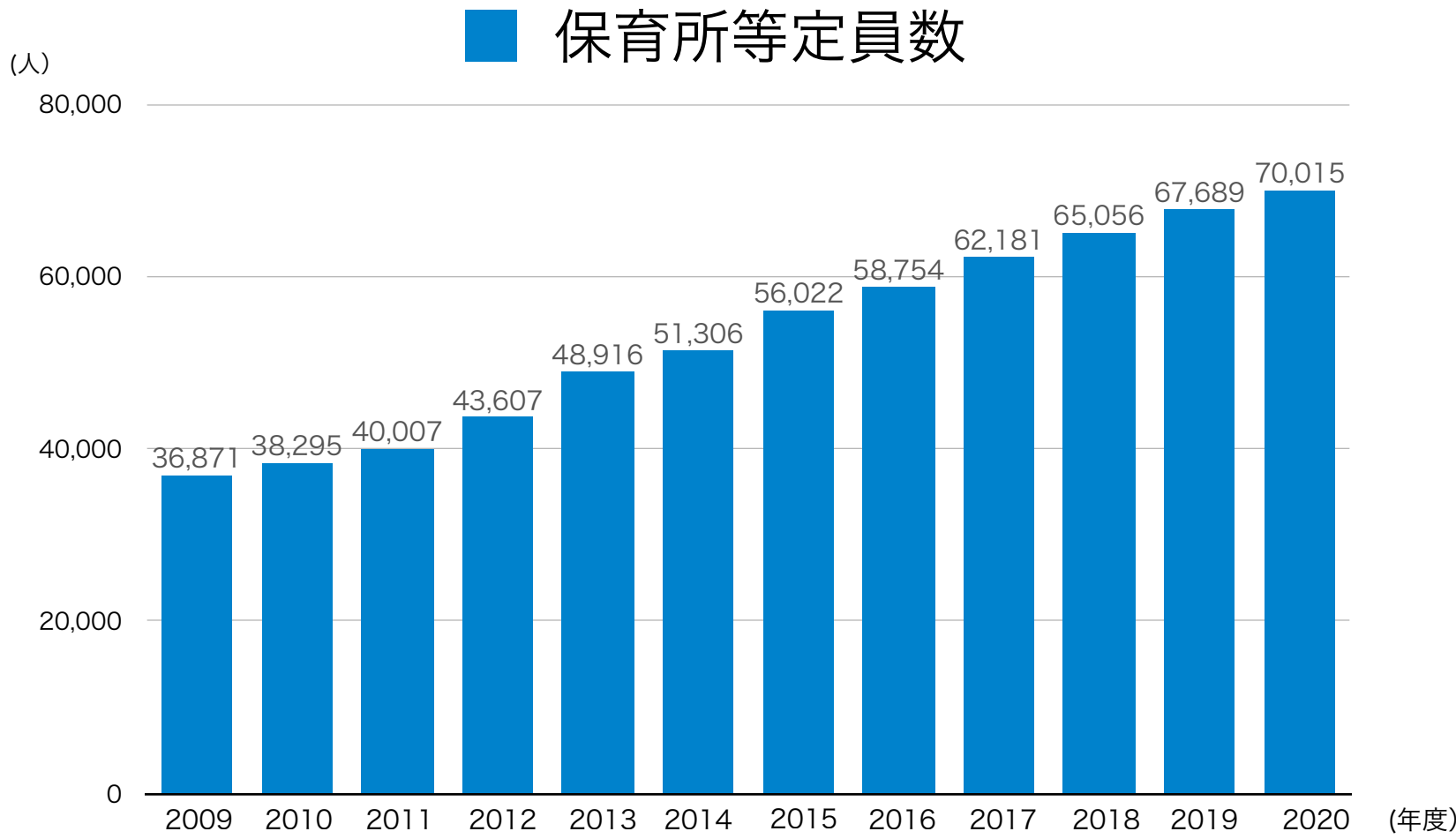
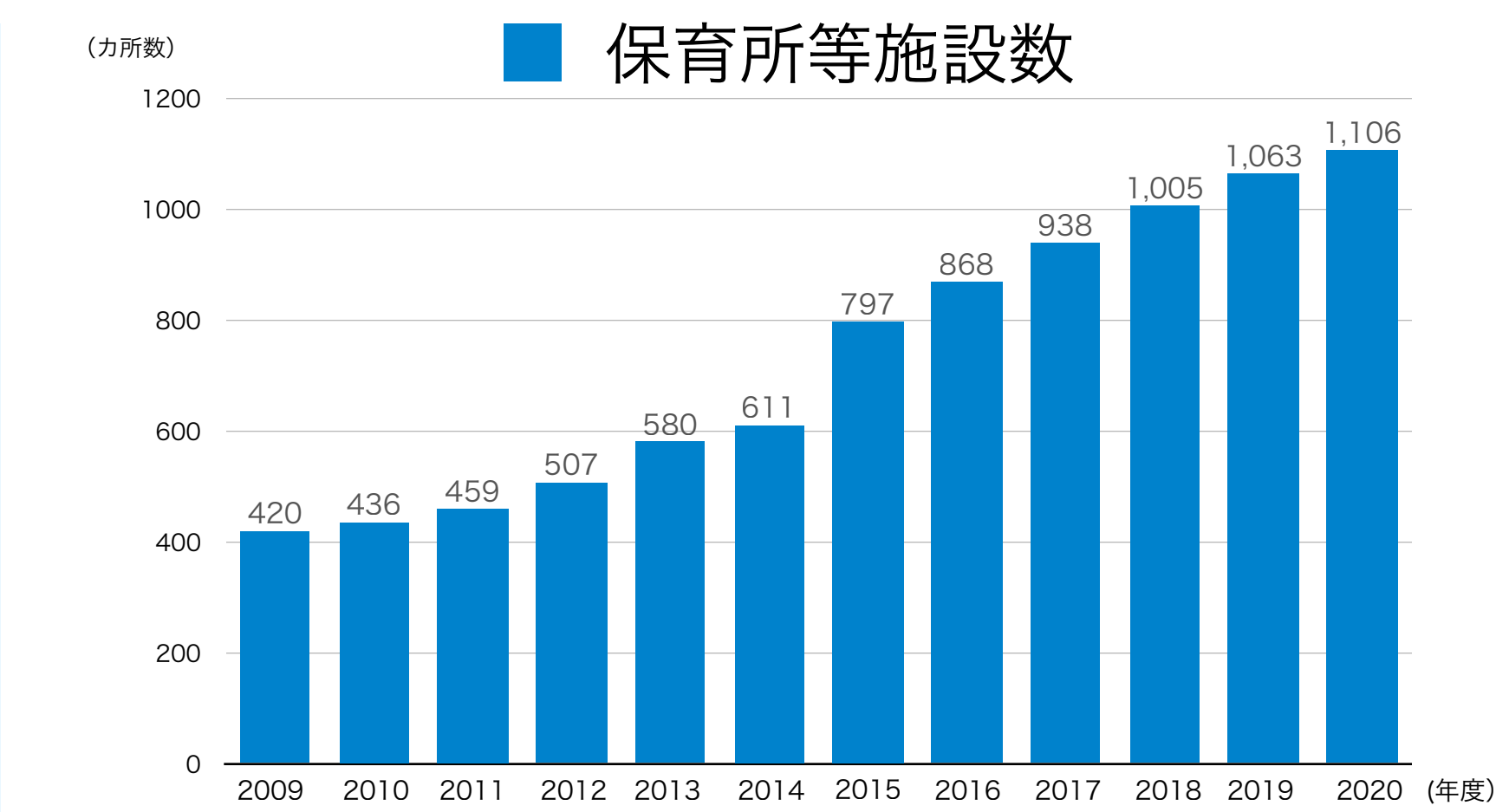
認可保育園、小規模保育施設、乳幼児一時預かり、親と子のつどいのひろば、産前産後ヘルパー派遣、育児支援ヘルパー派遣、ひとり親家庭生活支援、放課後児童健全育成事業、放課後等デイサービス、計画相談支援、居宅介護支援、訪問、通所介護 等運営

横浜市の保育資源と利用状況（2020年4月時点）

保育所等施設数 1,106施設（70,015定員）
利用児童数 68,512人
就学前児童数 171,503
利用申請者数 71,933
申請率 41.9%

進む少子化、高まる保育園利用ニーズ

	2009	2020
保育育所等施設数	420	1,106
保育所等定員数	36,871	70,015
就学前児童数(A)	194,638	171,503
利用申請者数(B)	39,948	71,933
申請率	20.5%	41.9%
利用児童数	36,652	68,512
留児童数	3,296	3,421
待機児童数	1,290	27



緊急事態宣言期間の対応

保育所＝「社会生活を維持するうえで必要な施設」

保育所に求められた対応

「緊急事態宣言の発出に伴う保育所等の対応について」
(令和2年4月8日こ保運第127号)

【横浜市の通知内容】

- ・（在宅勤務など）個別の状況の確認を行う事を求められる
- ・ 保護者向け協力依頼の発出要請あり

保護者に求められた対応

「新型コロナウイルス感染症防止のためのご協力について」
(ひな形)

【横浜市の通知内容】

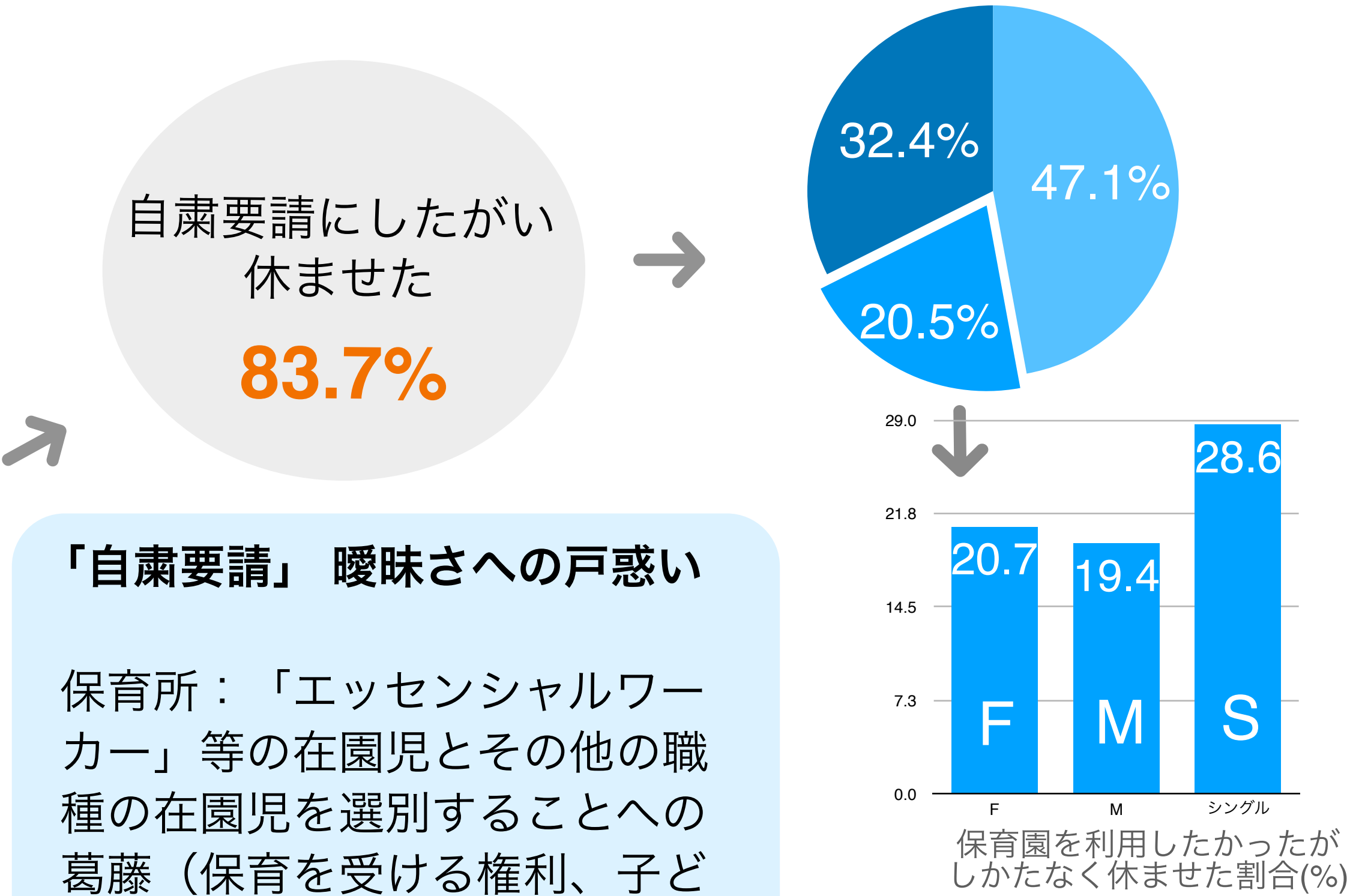
保育所等の利用について

- ・ 市内の保育所等は原則開園とし、保育が必要な方については、引き続き保育所等を利用していただけます。
- ・ ご家庭等での保育が可能な場合には、令和2年4月9日から5月6日までの期間の登園や延長保育の利用を控えてください。

保育料の考え方：登園自粛要請期間(4/8~6/30)、登園日数に応じて利用料(保育料)を減額
運営費：給付費・委託費等の支給については、登園自粛要請期間中も通常どおり

自粛要請にしたがい休ませた293人の回答

- 積極的に休ませた
- 保育園を利用しなかったがしかたなく休ませた
- 必要な時だけ利用した



「自粛要請」 曖昧さへの戸惑い

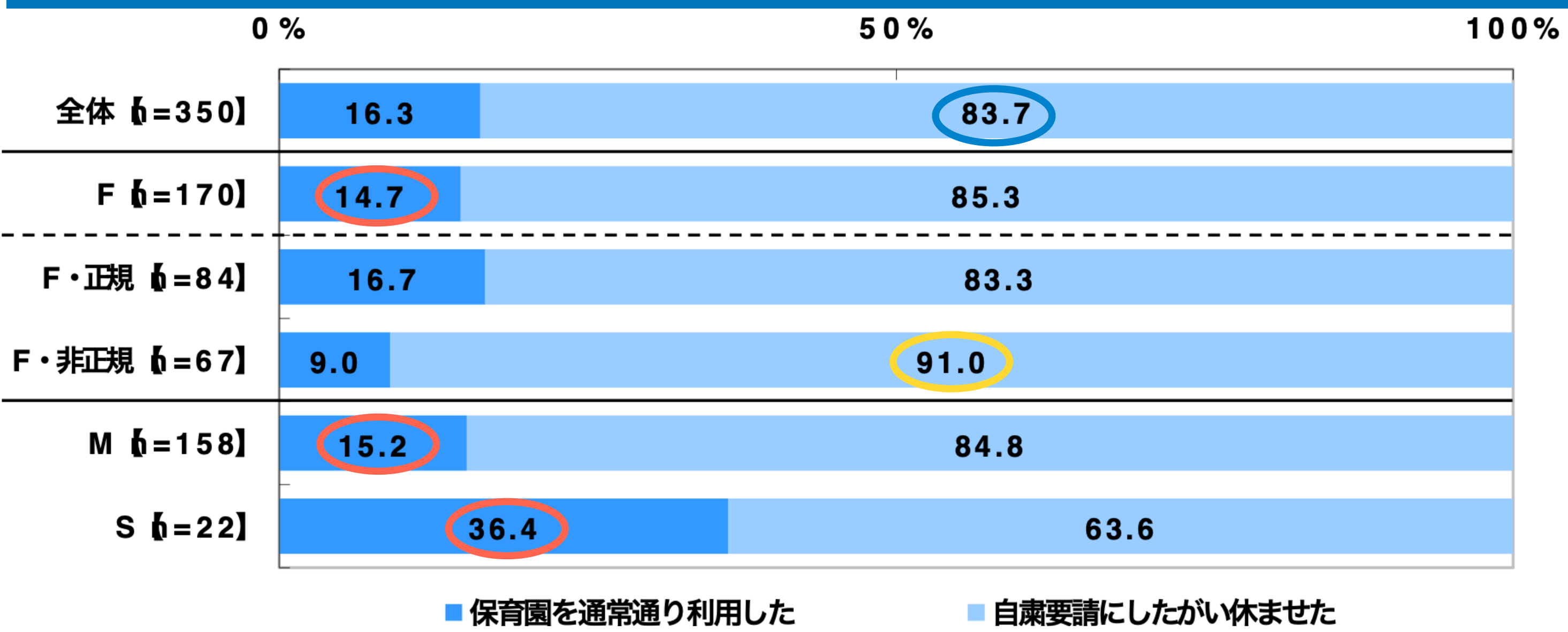
保育所：「エッセンシャルワーカー」等の在園児とその他の職種
の在園児を選別することへの葛藤（保育を受ける権利、子どもの育ちの側面）

保護者：保育の必要性を感じつつも、職業要件を行政が提示したことにより利用を控える動き

保育所の役割「家庭支援」

子育て家庭への支援
「働いていても・いなくても」
「暮らし」をサポートする

利用自肅要請期間の保育園利用状況



● 全体傾向

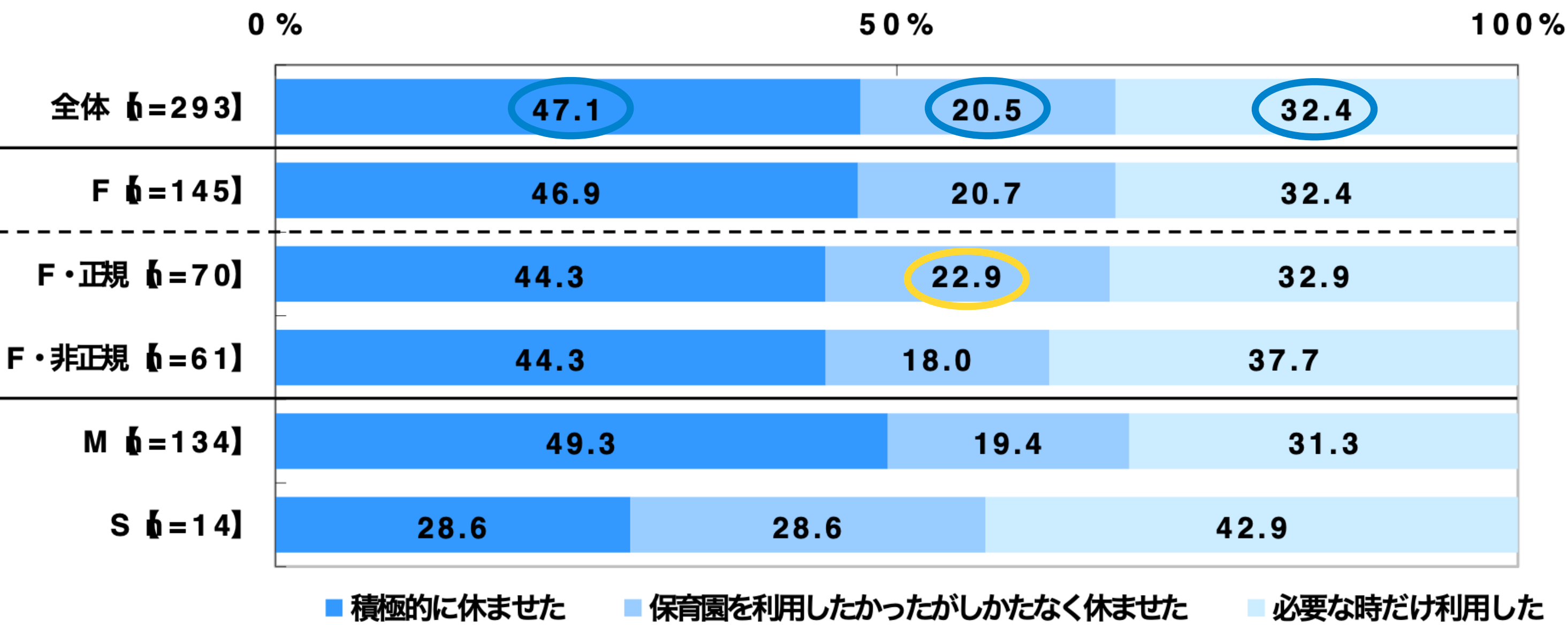
「自肅要請に従い休ませた」が83.7%にのぼる。
「積極的に休ませた」47.1%、「保育園を利用したかったが仕方なく休ませた」20.5%、「必要な時だけ利用した」32.4%。

● F・M・Sの状況

保育園を通常通り利用したSの割合は、
F14.7%、M15.2%に対して、S36.4%とF,Mを大きく上回った。

● 就労形態による比較

F正規は「利用したかったが休ませた」が22.9%と他の属性より高い。
「自肅要請に従い休ませた」が、F・非正規では91%にのぼる。



自由記述より

- ・ 自粛期間中もエッセンシャルワーカーとして出勤することがある中、子どもや周囲の人たちに知らないうちに感染させていないか不安だった。
- ・ 少しの発熱や風邪症状でも休ませなくてはいけない状況があり、ひとり親なので経済的に厳しい。
- ・ 育児をしながら仕事をするが大変だった。
- ・ 仕事＋家事＋育児で常に追われている状況だった。
- ・ 解決策として早朝深夜に仕事をするようになった。休む時間がなく精神的にきつかった。
- ・ 自粛期間中の仕事は半分以下しか男女関係なくできなくなるのが当然ということをもっと積極的に周知して欲しい。

コロナ禍における顕著な影響とその背景 (横浜市の状況)

退園状況

		4月	5月	6月	7月	8月	計	対前年比
小規模保育施設	2019	16	10	11	25	14	76	142.10%
	2020	17	19	28	20	24	108	
認可保育所	2019	155	102	130	162	170	719	98.30%
	2020	150	82	140	150	185	707	

小規模保育

2020年4月、市町村の認可事業（地域型保育事業）の1つとして新たに作られた事業。0～2歳児を対象とした、定員6～19人の施設。

保育が必要な利用区分(2020)

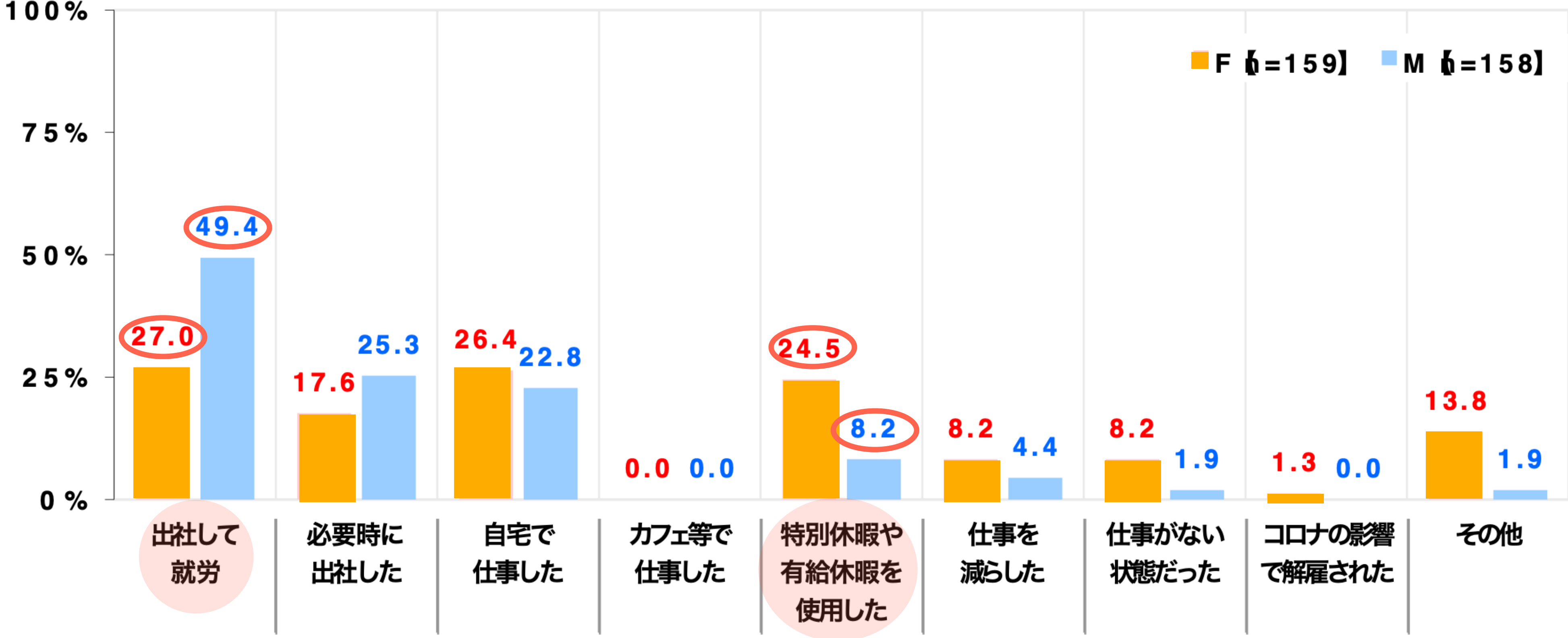
	居宅外労働	居宅内労働	産前産後	病気が	障害	親族の介護	通学	求職中	ひとり親世帯	保育士	市外在住	その他	計(人)
認可保育所	11937	298	37	110	55	61	27	774	338	40	9	124	13810
(%)	86.4%	2.2%	0.27%	0.8%	0.4%	0.4%	0.2%	5.6%	2.4%	0.3%	0.1%	0.9%	
小規模保育所	1235	41	15	25	3	3	6	209	49	8	1	13	1608
(%)	76.8%	2.5%	0.93%	1.55%	0.2%	0.19%	0.4%	13.0%	3.0%	0.5%	0.1%	0.8%	

利用調整基準

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	障害児	福祉	計(人)
認可保育所	10753	498	574	187	460	199	62	681	110	114	172	13810
(%)	77.9%	3.6%	4.16%	1.35%	3.3%	1.44%	0.4%	4.9%	0.8%	0.8%	1.2%	
小規模保育所	957	60	126	25	135	57	21	200	17	3	7	1608
(%)	59.5%	3.7%	7.84%	1.55%	8.4%	3.54%	1.3%	12.4%	1.1%	0.2%	0.4%	

A(高い)～I(低い)で、就労日数や時間、親の状況等により、利用調整の順位が決められている。

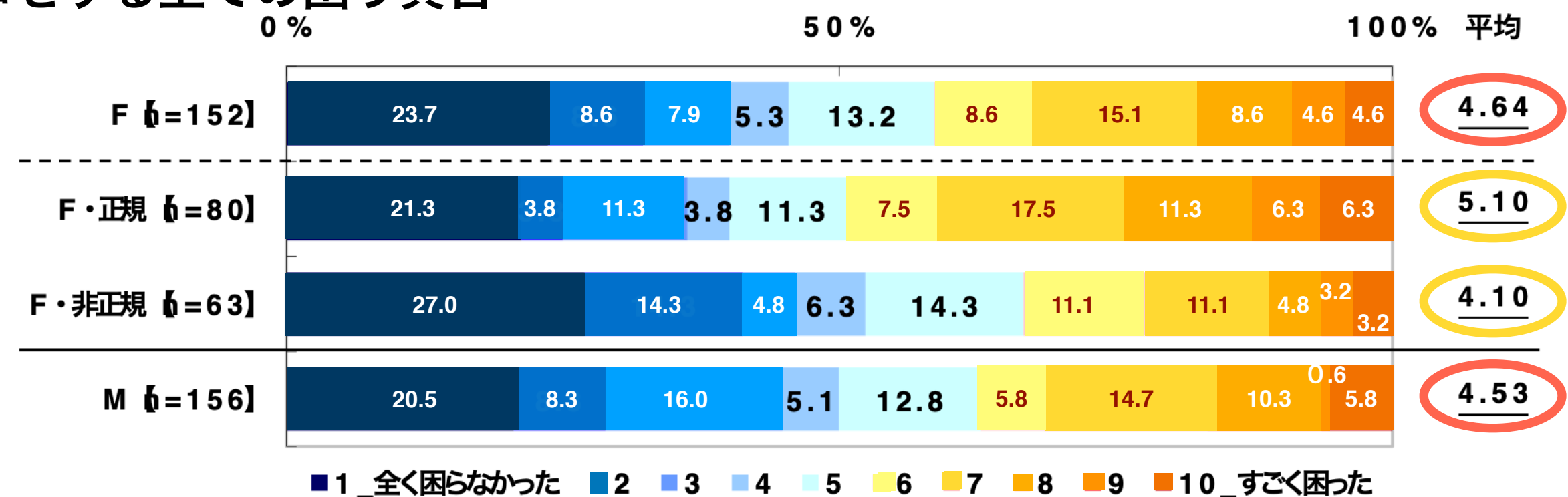
保護者の状況 自粛中の仕事の状況



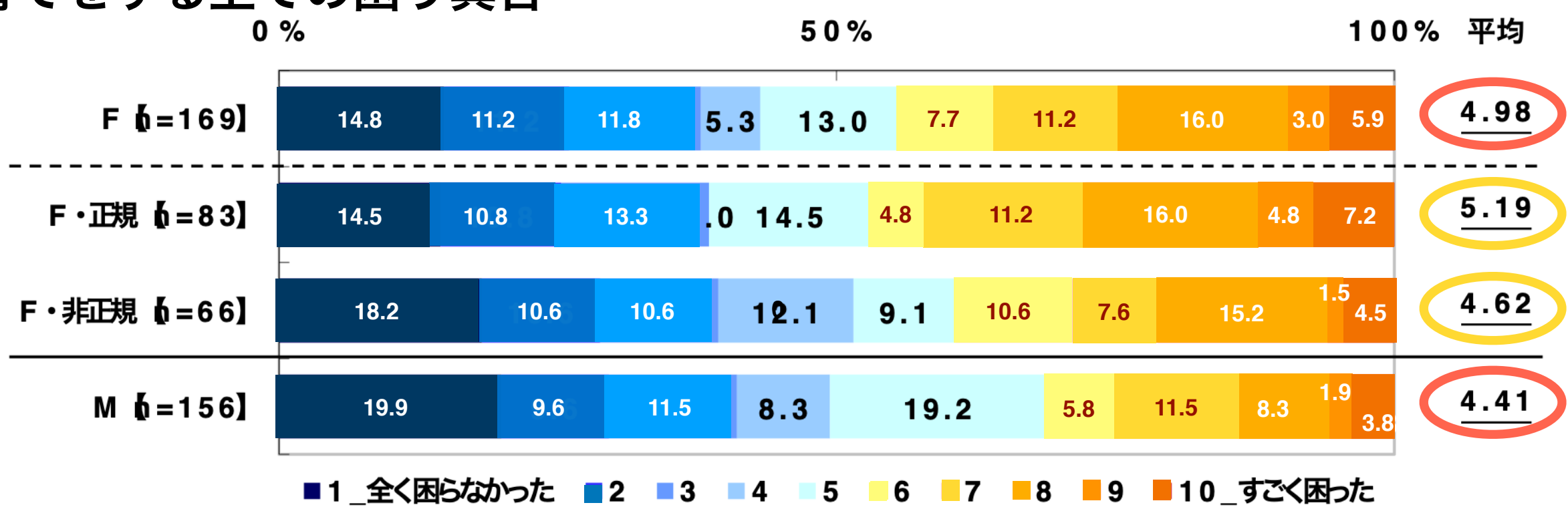
F・Mの状況

「出社して就労」の割合は、M49.4%、F27.0%とMが22.4ポイント高い。
特別休暇や有給休暇の取得率は、F24.5%、M8.2%と、Fがより積極的に取得している

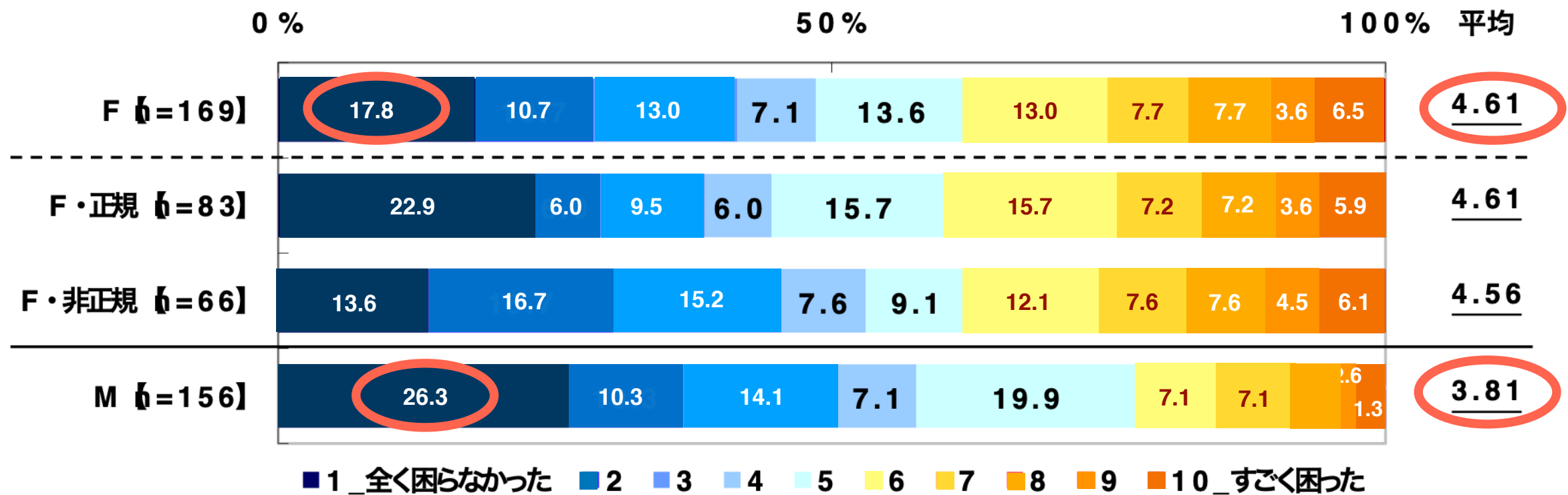
● 仕事をする上での困り具合



● 子育てをする上での困り具合



● 家事をする上での困り具合



● F・Mの状況

「仕事をする上での困り具合」 M4.53<F4.64
「子育てをする上での困り具合」 M4.41<F4.98
→いずれも、MよりFが高い。

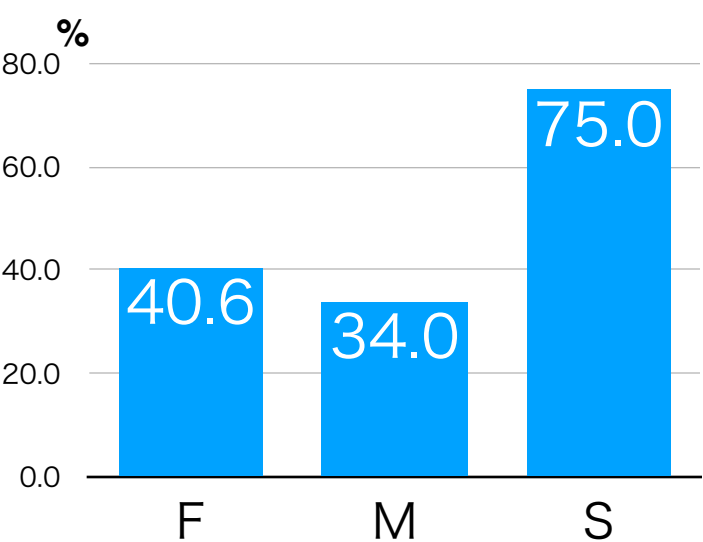
Fは「仕事をする上での困り具合」 4.64%<「子育てをする上での困り具合」 4.98%であるのに対し、Mは「仕事をする上での困り具合」 4.53%>「子育てをする上での困り具合」 4.41%となった。

「家事をする上での困り具合」で、全く困らなかったが、M26.3%>F17.8%と8.5ポイントの差が見られる。（平均 F4.61%>M3.81%）

● 就労形態による状況

F正規とF非正規では正規の方が困り具合の平均点が高く、スコアが高い方に分布している。

「仕事をする上での困り具合」 F正規5.10%>F非正規4.10%
「子育てをする上での困り具合」 F正規5.19%>F非正規4.62%で、いずれも、正規の方が高くなっている。



「自粛期間中の助け手」

「自粛期間中の助け手」があったのはM75.0%F40.6%<S75.0%であった。

気がかりなこと

	n数	感染への不安	漠然とした経済的不安	今月のやりくり	仕事の減少	仕事の遅れ	夫婦関係	こどもの様子	自分の精神的な不調	その他
全体	345	87.2	29.6	5.8	9.6	6.4	4.1	36.8	11.6	5.2
F	167	91.6	24.0	5.4	10.2	6.0	3.6	41.9	15.0	9.0
M	157	83.4	36.3	4.5	9.6	7.0	5.1	31.2	6.4	0.6
S	20	80.0	25.0	20.0	5.0	5.0	-	35.0	25.0	10.0
F・正規	84.0	91.7	17.9	-	3.6	8.3	6.0	41.7	15.5	8.3
F・非正規	65	90.8	30.8	10.8	15.4	4.6	1.5	40.0	15.4	10.8

● 全体傾向

最も多かったのは「子どもの様子」で全体36.3 %であった。

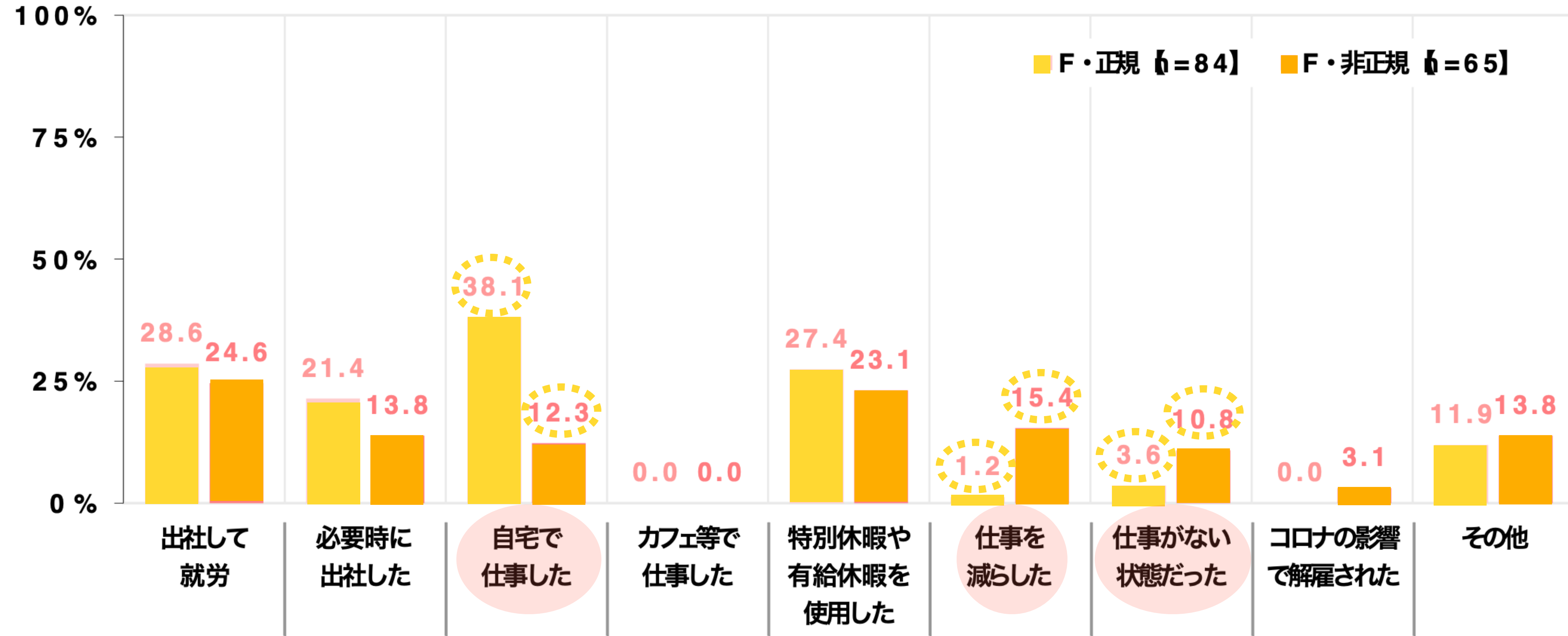
● 就労形態による比較

「今月のやりくり」 F正規0<F非正規10.8%、「仕事の減少」 F正規3.6%<F非正規15.4%、「夫婦関係」 F正規6.0%>F非正規1.5%と、直接的なコロナ禍の影響が読み取れる。

● F・Mの状況

「子どもの様子」、F41.9%>M31.2%
「自分の精神的な不調」、F15.0%>M6.4%
となっている。
Mがを上回ったのは「漠然とした経済的不安」 36.3%>F24.0%、
「仕事の遅れ」 M7.0%>F6.0%であった。

仕事の状況



● 就労形態による比較

仕事を減らした割合は、正規1.2%、非正規15.4%

仕事がない状態だった割合は、正規3.6%、非正規10.8%

仕事を減らした、もしくはない状態が、正規4.8%に対して非正規は26.2%と5.5倍となった。

自宅で仕事をした割合は、正規38.1%、非正規12.3%

事例

1. 求職中の非正規の母親の就職活動が難航
 2. 非正規の母親が、会社側から就業時間の短縮を打診されたケースあり
 3. 退園を避けるために急いで就職を決めた非正規の母親が退職、転職するケースあり（11月）
- 非正規労働の女性が従来から被っていた不利な状況や不安定さが、一層拡大

気がかりなこと

	n数	感染への不安	漠然とした経済的不安	今月のやりくり	仕事の減少	仕事の遅れ	夫婦関係	こどもの様子	自分の精神的な不調	その他
全体	345	87.2	29.6	5.8	9.6	6.4	4.1	36.8	11.6	5.2
F	167	91.6	24.0	5.4	10.2	6.0	3.6	41.9	15.0	9.0
M	157	83.4	36.3	4.5	9.6	7.0	5.1	31.2	6.4	0.6
S	20	80.0	25.0	20.0	5.0	5.0	-	35.0	25.0	10.0
F・正規	84.0	91.7	17.9	-	3.6	8.3	6.0	41.7	15.5	8.3
F・非正規	65	90.8	30.8	10.8	15.4	4.6	1.5	40.0	15.4	10.8

Sの状況

Sについては、「自分の精神的な不調」25%にのぼる。
また、「今月のやりくり」も20%と高く、厳しい状況が読み取れる。

子、および夫婦の関係への影響

子との関係

子どもに厳しい言葉でしかるなどつらく
あたってしまうことが増えたと思う

	n数	全くそう 思わない	非常にそ う思う	平均点 (点)
全体	347	36.9	5.8	3.54
F	171	26.3	9.9	4.29
M	156	48.1	1.3	2.76
S	20	40.0	5.0	3.30

夫婦の関係性

夫婦間の葛藤や衝突、言い争いが増えたと思う

	n数	全くそう 思わない	非常にそ う思う	平均点 (点)
全体	322	29.8	4.0	3.78
F	164	29.3	5.5	3.94
M	158	30.4	2.5	3.62

F・Mの状況

Fのマイナス感情のポイントがより高い傾向にある。

子どもとの触れ合いを楽しむことが増えたと思う

	n数	全くそう 思わない	非常にそ う思う	平均点 (点)
全体	348	5.7	20.7	6.71
F	171	4.7	16.4	6.57
M	157	5.1	25.5	7.00
S	20	20.0	20.0	5.55

夫婦間の会話が増え、互いの理解が進んだように思う

	n数	全くそう 思わない	非常にそ う思う	平均点 (点)
全体	323	9.6	7.4	5.36
F	166	10.8	8.4	5.33
M	157	8.3	6.4	5.40

ストレス度

ストレス度の合計点数と平均点

子の年齢

	おこりっ ぽくなる	悲しい気 分だ	なんとなく 不安だ	怒りを感じ る	泣きたい 気持ちだ	感情を抑 えられない	悔しい思 いがする	不愉快だ	気持ちが 沈んでいる	イライラ する	いろんな ことに自 信がない	何もかも 嫌だと思 う	よくない ことを考 える	話や行動 がまとま らない	慰めてほ しい	根気がな い	ひとりで いたい気 分だ	何かに集 中できない
0歳	0.77	0.36	1.27	0.77	0.18	0.55	0.45	0.68	0.50	0.82	0.59	0.41	0.50	0.41	0.09	0.14	0.45	0.32
1歳	0.57	0.48	1.13	0.52	0.21	0.29	0.24	0.39	0.49	0.61	0.55	0.28	0.42	0.30	0.20	0.28	0.57	0.33
2歳	0.83	0.49	1.19	0.63	0.32	0.48	0.34	0.43	0.60	0.75	0.45	0.37	0.48	0.28	0.29	0.35	0.69	0.39
3歳	0.70	0.45	1.06	0.48	0.30	0.36	0.21	0.36	0.36	0.74	0.53	0.19	0.49	0.39	0.21	0.39	0.66	0.45
4歳	0.72	0.51	1.06	0.46	0.29	0.50	0.21	0.42	0.37	0.73	0.37	0.21	0.42	0.25	0.20	0.29	0.46	0.35
5歳	0.68	0.51	1.41	0.46	0.27	0.41	0.18	0.32	0.51	0.70	0.54	0.27	0.62	0.32	0.24	0.35	0.76	0.38
6歳以上	0.79	0.42	1.11	0.51	0.19	0.42	0.20	0.49	0.38	0.74	0.42	0.34	0.51	0.28	0.30	0.40	0.83	0.45

最高値

● 子どもの年齢による比較

18項目中、8項目で0歳児の親のストレス度が最も高くなっている。

「怒りを感じる」「感情を抑えられない」「くやしい」「不愉快」「イライラする」「自信がない」「何もかもいやだ」「話や行動がまとまらない」

子どものケア責任をめぐり可視化された論点-1

性別役割分業

- 「保護者の自粛中の仕事の状況」
Fはより積極的に自宅にいることを選択し、就労状況を変化させている
- 「仕事をする上での困り具合」「子育てをする上での困り具合」「家事をする上での困り具合」
Fの困り度が高い
- 保育所利用自粛により、子育てや家事を必然的に引き受けざるを得なかった

(自由記述)

(F) 夫の在宅勤務中に子どもがうるさくしないよう気を遣った
食事作りや家事、子どもと過ごすことに困難があった等の記述あり

子どものケア責任をめぐり可視化された論点-2

女性の非正規労働者が直面する不安定な就労環境

- 「保護者の自粛中の仕事の状況」におけるFの正規と非正規の比較
仕事を減らした、もしくは仕事がない状態：非正規が正規の5.5倍
- 「自宅で仕事をした割合」におけるFの正規と非正規の比較
正規が非正規の3倍以上
- 非正規の母親の就職活動が難航した事例が複数発生

(事例) 求職要件で入所した非正規の母親の就職活動が難航

- ・ コロナの影響で企業の採用数が減少したことに加え、就職面接を体験した保護者の中には、小さな子どもを抱えた女性に対する企業側の感触の悪さを感じた。
 - ・ 自宅と保育所の両方から近い就職先を探していた（非正規の母親）が、近隣での就職先が見つからず、遠方に就労した。
 - ・ 飲食業で働く非正規の母親が利用客が減ったため、会社側から就業時間の短縮を打診された。
 - ・ 正規雇用の女性からは働き方についての相談はほぼなし。
- 在宅勤務が増えたために通勤時間がなくなり、子どもと過ごす時間が増えた(複数ケース)

子どものケア責任をめぐり可視化された論点ー3・4

社会的弱者へのしわ寄せ

- シングル家庭の抱える困難
「今月のやりくり」に20%が気がかりであると回答、「自分の精神的な不調」が4人に1人。
- パートナーがいるFとMと比較すると、シングル家庭はこれらを心配する割合が高い。
- 自由記述：給付金や公的なサポート体制の要望などを望む意見

階層化の先鋭化

- 保育の利用区分のデータ
認可保育所と小規模保育所利用者の就労状況や経済格差
- 小規模保育所の非正規労働のカップルの回答→経済的な不安が強い。

(自由記述)

「将来に対して希望が持てない」

(事例)

- ・ 経済活動が再開された後も保護者からの相談を頻繁に受けている
子どものことのみならず、仕事の状況が不安定、保育所に在籍し続けられるのか不安、話を聞いて欲しいという様子

保育園が持つ機能の再発見

保育所の役割＝子どもの育ちの保障と家庭支援

- 子どもの育ちの保障はもちろん、特に、家族の安定と、社会経済活動を支えていたという事実が保育所にフィードバックされた
- 性別役割分業が前面に押し出された一方で、父親が子育てのシーンに喜びを覚えた、これは子育てを家庭と保育所で共有できるチャンス
- 非正規労働の課題＝>保育制度のあり方を問う機会
＝>働き方の多様性を認め、例えば保育所と一時保育やひろばなどの特性をミックスできるならば、様々なニーズに応えられるだけでなく、子育てを地域社会全体に広げていくことも期待できる
- 今、地域の保育資源と家庭とが協働して、柔軟な保育政策を求めていく段階になったのではないか